

「島地川ダム水質改善検討委員会」第6回議事録

第6回「島地川ダム水質改善検討委員会」議事録要旨

日時：平成23年10月26日（水）14:00～16:20

場所：山口河川国道事務所別館3F 災害対策室

出席者：学識者

4名）中西委員長、脇坂委員、酒井委員、南山委員

行政関係者

3名）山口県河川課 岩本委員、中国地方整備局 嘉村委員、
山口河川国道事務所 池田委員

事務局：10名

■議 事：以下のとおり

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員長挨拶
4. 議事
 - 1) 第5回委員会議事内容の確認
 - 2) 第6回委員会 議題の確認
 - 3) 島地川ダムの水質改善事業の進捗状況
 - 4) アオコ対策装置の効果と今後の計画（案）
 - 5) 今後のアオコ対策施設の運用方法
 - 6) 水質モニタリング調査（案）
 - 7) 重金属類対策の進捗報告
 - 8) まとめ
 - 9) 質疑
5. 今後の委員会スケジュールについて
6. 情報公開について
7. 閉会

■質疑応答

1) アオコ対策装置の効果と今後の計画（案）について

【委員】

プロペラ式水質改善装置を選んだ理由は何か。

【事務局】

本委員会の前の委員会である「島地川ダム湖水質改善対策検討委員会」で選定された。

【委員】

平成 17 年以前と平成 18 年以降で急にアオコが増えたように見えるが、その理由はなぜか？

【事務局】

アオコの発生日数でみるとそうなるが、アオコ細胞数などでみると必ずしもそうではない。指標によって異なる。

【委員】

降水量がグラフ化されてはいるが、年別に多かったのかどうかを数字で示した方がよい。

【事務局】

アオコの多かった平成 18 年にも降水量が多い状況であった。記載するようにしたい。

【委員】

「流入量のみがアオコ発生の要因ではないと考えられる」は、流入量も要因の一つであると受け取れる。表現を他に修正された方がよい。

【事務局】

わかりにくい表現であったので、検討したい。

【委員】

H 2 0 年度の運用では結果的にアオコ増殖を抑制できなかったこと、H 2 1 年度以降では結果として一定の効果が認められたことは了承する。ただし、現時点では台数は 1 基とするものの、検証する時間が短かったため、今後もモニタリングを継続し、気象条件、流入負荷、水文条件を引き続き監視すること。

【事務局】 今後もモニタリングを継続する。

2) 今後のアオコ対策施設の運用方法

【委員】

事務局案のとおり、4月～10月の連続運転で水温勾配（表層水温）等を低下させることでよいが、 $0.5^{\circ}\text{C}/\text{m}$ の指標については、他ダムでの効果等を収集整理した上で適宜修正すること。

【事務局】

他ダムでの効果等を収集整理し、 $0.5^{\circ}\text{C}/\text{m}$ の妥当性を確認したい。

3) 水質モニタリング調査（案）

【委員】

アオコの発生と流入負荷量の関係を把握すべきである。

【事務局】

今後栄養塩類に関する出水時の水質調査を検討したい。

4) 重金属類対策の進捗報告

【委員】

グラフのDO値については、 15mg/L 以上は想定され難いので、資料に掲載する場合は注釈を入れるなど工夫する。

【事務局】DO計の本来の測定範囲を超えて測定した値については注釈を入れるなど、対応を検討する。

5) 議事のまとめ

【事務局】

- ◆ H20年度の運用では結果的にアオコ増殖を抑制できなかった。H21年度以降では結果として一定の効果が認められた。
- ◆ 今後の運用は当面1台とし、連続運転で水温勾配（表層水温）等を低下させる。総合的に効果を検証し、気象条件、流入負荷、水文条件を引き続き監視していく。

6) 委員会スケジュールについて

【委員会】事務局説明で了解。次回は平成24年2月を予定し、最後の委員会とする予定である。

7) 情報の公開について

【委員会】事務局説明で了解。

会議資料、議事録は委員に確認後、事務所HPに掲載する。

以 上